

<無痛分娩とは？>

麻酔薬を使って陣痛の痛みを和らげながら出産する方法が無痛分娩です。

脊髄と呼ばれる痛みを伝える神経の近くに麻酔薬を投与し、神経をブロックして痛みを軽くします。

ここでは、無痛分娩の、メリットとデメリットを紹介します。

無痛分娩の最大のメリットは、痛みを和らげることで出産への恐怖と痛みによるストレスを緩和させ、ママが落ち着いて出産に臨める事です。

デメリットとして、無痛分娩で発生する合併症やトラブルなどがあります。

① 分娩時間が長くなることがあります。

麻酔薬の影響で陣痛が弱くなることで、分娩の進行が遅れ、陣痛促進剤を使用しなければならなくなったり、鉗子分娩や吸引分娩が必要になったりすることがあります。

② 麻酔の効果不十分などがあります。

人によっては、麻酔薬が入っているのに、どうしても一部分の痛みだけ軽くならない事や麻酔が効きにくい体質ということもあるので注意が必要です。

③ 赤ちゃんに対するデメリット

陣痛促進剤で人工的に陣痛を起こすことで胎児機能不全が起きる可能性があります。

また、鉗子や吸引器を使用することで母体や赤ちゃんの頭を傷つけるリスクもあります。

*このリスクは、無痛分娩だけに限ってはいません。

④ 産後のデメリット

分娩の進行が遅れることで、赤ちゃんの頭が長時間お母さんの神経を圧迫し、排尿障害や神経障害（足のしびれや感覚麻痺）のリスクが高まることもあります。

*分娩が進まない場合、以上のリスクを考慮し、母児の安全の為に緊急帝王切開に切り替えることもあります。

無痛分娩を希望される方は、**事前に医師から十分な説明を受け、疑問点があればきちんと相談する事が大切**です。
メリットとデメリットをしっかりと理解した上で、**ご家族と一緒に自分に合った分娩方法を選択**しましょう。

*厚生労働省「無痛分娩について」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/AA10K-0000186912.html>

(母子手帳 P.64 より一部抜粋)